



冷池小屋にて

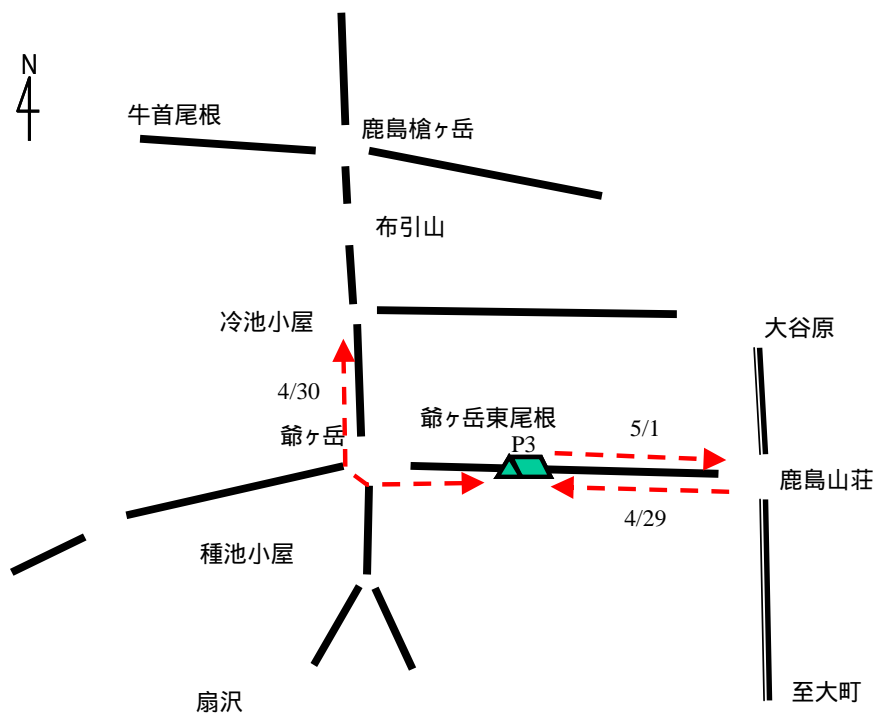
### メンバ

金子 清(CL) 町田 修(SL) 藤田 健治 亀山 誠(地形) 竹内 幹雄(気象) 村越 好晴(涉外)  
芦田 直之(食糧) 山田 明(装備) 松中 真理子(会計) 江頭 孝治(記録)

### 目的と山域

新人の育成、雪上技術の維持向上と親睦  
北アルプス爺ヶ岳東尾根～爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳

### 概念図



## 4月29日(土) 快晴

N1 駐車場(6:20 発) 駒ヶ根 SA(8:00 着) 鹿島山荘(9:50 着)

行動: 鹿島山荘 960m(10:30 発) 東尾根(枝)尾根 1250m(11:20 着) 東尾根 1476m(12:25 着)

1740m(13:35 着) ジャンクションピーク 1766.9m(14:08 着) 1900m(14:45 着) P3 1978m(15:20 着)

雪上訓練(16:00) 夕食(17:00) 就寝(19:00)

午前 6:20、刈谷を出発。天気は快晴。長野自動車道を降り、大町市へ近づくにつれ北アルプスの山々が間近に迫ってきた。数時間後にはあの山の中腹を歩いていると思うと胸が躍る。準備を済ませ、午前 10:30 登山開始。雪はなく落葉で覆われた道は春を感じさせられる。が、登るにつれ傾斜は徐々にきつくなり、木の根元や枝をつかんでの登りを強られる(写真)。黙々と登ること 50 分。枝尾根に出た所で一休み。登山口 960m 1,250m。一気に標高を稼いだ。ここからは傾斜も緩やかになり、少し歩くと雪道となった。トレースもあり歩きやすい。1時間ほど歩くと東尾根に出た。樹林



帯である。木々の合間から爺ヶ岳が見えるがまだまだ道のりは遠そうだ。木漏れ日の中、気分良く歩いていると雪の落とし穴にはまる。傾斜も徐々にきつくなってきたころ、目の前に鹿島槍ヶ岳の雄大な景色が飛び込んできた。さらに急な斜面を歩くこと 20 分。息を切らせながら登りつめると、そこには爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳の素晴らしい大展望がひらけていた。ジャンクション・ピーク(

1,766.9m) に立っていた。しばらくの間、10 名それぞれの大歓声がやまない。それから 40 分ほど登るとテントを張った跡を見つけた。そろそろ疲れも出始めたので、ここでテントを張るか迷ったが、P3 まで登ることになった。午後 15:20、P3 に到着。爺ヶ岳山頂を目の前にテントを張り、雪上訓練でピーコンとピッケルの使い方を教わる(写真)。17:00 頃テントに入り、10 名にぎやかにビールと食事を楽しんだ。テントの外では下界に広がる大町市の夜景と夜空の星が輝いていた。(松中)



## 4月30日(日) 曇り時々雪のち晴れのち暴風雨

起床(4:00) 朝食(4:30)

行動; P3 1978m(5:30 発) 矢沢の頭( P1) 2411m(7:00 着) 爺ヶ岳中峰 2669.8m(8:30 着) 主稜線 2500m(9:40 着) 冷池小屋 2420m(10:20 着/11:10 発) 2600m(12:00 着) 爺ヶ岳中峰(13:10 着) 矢沢の頭(時間記録無し) P3(15:45 着)

夕食(17:00) 就寝(19:30)

熱い本格ラーメンで目を覚ます。軽い降雪の中、P3ベースをあとにする。冷え込んだバーンは締まってアイゼンの効きは良い。だんだんに尾根が痩せて、ガイドに読んだナイフリッジの登降となる。ついにストンと、ひときわ切れ落ちた箇所となる。それまで何とか平静を装うも、此処に至って自らの恐怖心を屁っ放り腰という表現手法で公然に陳列するに及び、みっともない事この上もないが、どうにもならない。足元に造形された幅 30cm だけを見つめて進む。谷底に焦点すれば目がくらんで引き込まれるのは明白だ。しばらく続いた核心を何とかやり過ごし、東尾根最後の急登を喘いで矢沢の頭(P1)。稜線でお決まりの風に煽られ、カップで対応する。爺ヶ岳中峰が間近になると、春にしては厚化粧の白髪老、我々のオンサイトタイミングを知っていたとでも言いたげにガスのカーテンを引き払い、盟主、鹿島槍ヶ岳を我々の目前に提示(写真)。



固い握手。記念撮影もそこ

そこに、引き続き主稜線に行く。信州側に張り出した雪庇がその威容を見せた。'ひさし'というより巨大なコンクリート塊のようである。ギャップの通過で、山田氏がスリップしてしまった。藤田部長の一喝とともにピッケルが打ち込まれ、停止。このとき雪は腐った状態であった。自分も比較的平坦なルートに気が緩みがちで、漫然と進んでいた矢先であった。一步一步を意識して、冷池山荘まで進む。大休憩を取りながら相談が行われ、天候は回復していたものの、パーティーの体力と行動時間が考慮され鹿島槍ヶ岳ピークハントは断念。往路を戻る。要所でフィックスロープを出して貰う。心強い。東尾根の核心もおかげで高度感が 1/10 になった(写真)。幕営地に戻ると同時に雨が降り出し、徐々に風が出る。シュラフの中からいくら念じても、結局フライをボロボロに引き裂いた春の怒涛は、翌朝の出発時間ギリギリまでその拳を振るい続ける。(江頭)

## 5月1日(月) 暴風雨のち晴れ

起床(4:30) 朝食(5:30)

行動;P3(6:45 発) 1400m(7:50 着) 鹿島集落堰堤 1010m(8:45 着) 鹿島山荘(9:00 着)

薬師の湯(10:00 着) 駒ヶ根 SA(12:45 着) 部室(15:10 着) 解散(15:35)

4:30に起床する。前日の夜から暴風雨が続いており、強い風によってテントが激しく揺すられ、ポールが折れてしまうのではないかとされる程であった。5:30に朝食を取る。天気予報では6時過ぎに暴風雨が治まるということだったので、テントの中で待機した。予報通り6時過ぎに暴風雨は小康状態になったので、テントをたたんでパッキングを行い、6:45にP3を出発した。天候はかなり回復していた。下山途中、両側が谷になっている危険な箇所があったため、暴風雨が治まったのを、ものすごく幸運に感じました。足取り良く、快調に下山して行き、7:50に1400m地点で休憩を取る。さらに下山を進め、雪が少なくなってきたため、アイゼンを外した。やがて、最後の急峻な崖に差し掛かる。昨日の雨で地面は濡れており、枯れ葉も湿っていたため、滑落に注意しながら慎重に下山する。斜面が急なため、足への負担も大きく、本日の下山で最も神経を使いました。全員無事に崖を下り、8:45に鹿島集落堰堤に到着して休憩を取る。近くに綺麗な小川があったので、顔を洗い、疲れを癒した。その後、9:00に鹿島山荘に到着し、下山を完了した。全員無事に下山出来た事を、メンバー同士で讃え合った。近くの温泉に入り、体を休めた後、帰路についた。高速道路の渋滞も無く、15:10に無事に刈谷に到着した。(山田)



矢沢の頭(P1)から爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳

## 所見/反省/振り返り

計画, 行動, ルート, 気象, 装備, 食糧, などから...

### <計画>

・昨年の春山合宿、白山(千振尾根～白山～別当谷)のステップアップとして、爺ヶ岳東尾根～鹿島槍ヶ岳のルートを描画した。合宿までの事前準備として、御岳での雪上訓練、個人山行による体力強化、平地合宿での装備、食料等の検討、計画的に実施し、本番を迎えることが出来のは良かった。結果は冷池小屋で引き返すことになり、鹿島槍ヶ岳頂上に立つことが出来なかったが、目的の新人育成、雪上技術の維持向上についてはザイルワーク、アイゼン歩行等が実践でき、成果が得られた。(金子)

### <行動>

・計画段階から2日目の行動時間が長く、厳しいと予測はしていた。当日のペースが思ったより上がらず、復路の安全を考慮し、冷池小屋で引き返すことを決断した。爺ヶ岳からの下りは、フィックスし慎重に行動した。テント場着後、雨が降り出し、テントのフライが破れるほどの強風だった。行動中、好天に恵まれ、安全登山で春山を満喫することが出来た。

・鹿島山荘の取付きから尾根までは急登。足場も悪く、滑りやすい登山道(踏みあと?)であった。(金子)

### <食糧>

ベースキャンプをはれる場合は、今回のように余裕の有るメニューも選択できる。サンマの蒲焼丼は好評だったが、空いた缶詰からの臭いがザックに移ってしまった。

缶詰はかさばるが密封が必要。卵スープとご飯でおじやを作ったが、そのままではかなり薄味。塩気を追加したほうがいい。(芦田)

## 感想

安曇野の高瀬川沿いの道を北上しながら車中から見た爺ヶ岳・鹿島槍の雄姿は若いメンバーに幾分かの威圧感とチャレンジ意欲を斯き立てるのに十分な構図だった。その鹿島は体力と技術の甘さゆえに容易に我がパーティーを寄せ付けなかった。登頂への未練はさ程なかったがリベンジ鹿島への思いは確実に芽生えたと思う。その時はぜひ声をかけて欲しい。若手を中心にして大勢のメンバー構成で春山を楽しんだ合宿は最近なかった。活性化されつつあるこの状態を大切に育てて行きたい。(町田)

今回も、合宿参加者数が増えてきて、部活動の活性化に手ごたえを感じています。

まずは部員層の広がりやに想いを優先していますが、徐々に高さの面でもいろいろな仕掛けを期待したいところです。登山をする上で「よく登り・よく読み・よく書いて」と先輩に檄を飛ばされた懐かしい思い出があるのは私ひとりではないと思います。山登りで情報受信者だけに終わるのではなく、登山情報の発信者側になるべく、少しでも精進をして、楽しみを倍化されることを期待します。(藤田)

心配していた雨も行動中は降られることもなく、快適に歩くことが出来て、ある意味天候に恵まれました。

爺ヶ岳東尾根を登り、P3から爺ヶ岳のコースはザイルを出して、緊張する場面もありましたが、有意義な合宿でした。(竹内)



東尾根 1900m 付近から爺ヶ岳

ザイルワークの必要性を強く感じた(岩登り等で確保の仕方を学ぶ)。基本的な歩行訓練の必要性(足の置き方、低雪山での時間歩行等)。合宿前の雪上訓練の実施(アイゼンの着け方、滑落停止等)。

雪山は美しい。しかし、遠くから眺めるものではない。実際に頂に立ち眺めるものである。この頂に立てる素晴らしさに感動。(村越)

今回、初めての合宿参加でしたが、先輩方のご指導の下、雪山を大いに堪能することができました。厳しい面もありましたが、すべてが目新しく疲れも忘れて楽しませて頂きました。(松中)

リーダー始め皆さんお疲れ様でした。先ず大勢で合宿が実施できた事が良かった。特に若手の参加が多く、大変嬉しい事でした。鹿島槍の頂に立てなかったのは心残りですが、みんなが全体に楽しく行動し、締めるべき所は締め、とても良いムードであったと思います。計画としては、少々高めだったと思いますが、熟練者も複数おり、判断や行動にも落ち着きと安心・安定感を感じ、良かったと思います。お陰さまで、“楽しさと程よい緊張感”を体感でき、良い合宿となりました。

若手さんへ: 今回の経験を今後の活動に生かし、活躍を期待します。ありがとうございました。(亀山)

今回は反省点は大きく2つある。1つはアイゼンが外れてしまった。平地でしっかり締める練習をすべきだった。もうひとつは、装備のことだが、雨具と防寒具を別に持つべき点、靴下の予備を持つべき点、水よけのため靴袋を持つべき点、手袋に細引きをつけるべき点、サングラスはゴーグル型がよい点など。(芦田)

デンソー山岳部入部以前にも二度ほどの春山経験がありましたが、爺ヶ岳の東尾根が一番難度を感じました。要所でフィックスを出して頂き、だいぶ心強く、またロープのありがたみを肌で感じました。なんといっても諸先輩の皆さんと未熟な私の力の差を感じました。長年の経験の差を埋めることはどうにも叶わないかも知れませんが、少しでもパーティーの役に立てる実力をつけたいものと思います。(江頭)



P1直下からベースを望む

行動日の天気図 (気象人 <http://www.weathermap.co.jp/kishojin/> より)





会計報告

(円)			
収入		10,000 × 10 名	100,000
支出	食糧		19,688
	高速代	11,300 × 2 台	22,600
	ガソリン代	11,300 + 15,440	26,740
<b>支出合計</b>	<b>計</b>		<b>69,028</b>
残金			30,972
	返金	3,000 × 10 名	30,000
	O B 会へ寄付		972
残金			0

以上